

公開実用 昭和63- 146909

⑩ 日本国特許庁 (JP)

⑪ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報 (U)

昭63- 146909

⑬ Int. Cl. 4

F 21 V 21/02

識別記号

厅内整理番号

Z-6908-3K

⑭ 公開 昭和63年(1988)9月28日

審査請求 未請求 (全頁)

⑮ 考案の名称 高所取付面への器具類取付構造

⑯ 実願 昭62-39768

⑯ 出願 昭62(1987)3月17日

⑰ 考案者 藤岡 由紀男 岡山県倉敷市水島川崎通1丁目(番地なし) 川崎製鉄株式会社水島製鉄所内

⑰ 考案者 池田 浩 岡山県倉敷市水島川崎通1丁目(番地なし) 川崎製鉄株式会社水島製鉄所内

⑰ 考案者 山口 哲也 岡山県倉敷市水島川崎通1丁目(番地なし) 川崎製鉄株式会社水島製鉄所内

⑯ 出願人 川崎製鉄株式会社 兵庫県神戸市中央区北本町通1丁目1番28号

⑯ 代理人 井理士 森 廣三郎

明細書

1. 考案の名称

高所取付面への器具類取付構造

2. 実用新案登録請求の範囲

1. 器具類の取付面の反対面に歩廊等の足場を有する高所における壁面等に器具類を設置する場合の取付構造であって、器具類の取付面を歩廊等の足場側へ回動又は取外し可能なパネル(1)に形成し、該パネル(1)へ器具類(3)を設置したことを特徴とする高所取付面への器具類取付構造。

3. 考案の詳細な説明

〈産業上の利用分野〉

本考案は壁面や天井面、屋根等の高所位置へ照明器具等の器具類を取付ける際の取付構造に関するものである。

〈従来の技術〉

従来、高所に照明器具、サイレン、ブザー、スピーカー、モニターテレビ等の監視器具、表示板、その他の器具類(以下、単に器具類と略称する)を取付けるには、通常、第6図のように、取付位置

の下方にデッキ(12)と、このデッキ(12)への昇降設備(13)を設け、昇降設備(13)で作業者がデッキ(12)まで上がり、そのデッキ(12)上で器具類(11)の取付作業が行なわれていた。また、補修の場合もその昇降設備(13)でデッキ(12)まで上がって補修作業をしていた。

〈考案が解決しようとする問題点〉

このように、器具類専用のデッキや昇降設備を必要とするために、設備費を多く必要とすると共に建物内の空間を無駄にしていた。また、デッキや昇降設備を設けない場合には、取付時や補修時に足場組や高所作業車が必要となっていた。いずれにしても、コスト高や危険性を伴うものであった。

〈問題点を解決するための手段〉

そこで、本考案者等は、上記問題点を解決するために種々検討を重ね、次のように(ア)～(オ)のような順序を経て本考案の構成を想起し開発するに至ったのである。

(ア) 高所に器具類を取付ける必要がある場合に、

その取付部位の後面に仕切壁を介して歩廊等の床が設けられているのが一般的である。

(イ) その床からデッキへ移動できれば、デッキへの昇降設備は不要となる。

(ウ) 床からデッキへ移動するためには 扉が必要であるが、器具類はデッキに取付けなければならぬという必要はなく、取付及び補修ができる作業床だけがあればよい。

(エ) その作業床を 仕切壁を介しての歩廊等の床と考えると、仕切壁をくり抜いてその部分に器具類取付用パネルを独立した扉式に設け、そのパネルを歩廊等の床側に開いた状態に回動させるか又は取外すと、そのパネルの歩廊と反対側に器具類の取付を行なうことができる。また、そのパネルに取付けられた器具類の補修を行なうことができる。

(オ) 器具類の使用は、器具類が取付又は補修された後に、その扉式のパネルを閉じるか又は取外し式の場合は壁面等にはめ込むと使用に供せる状態になる。

すなわち、本考案は器具類の取付面の反対面に歩廊等の足場を有する高所における壁面等に器具類を設置する場合の取付構造であって、器具類の取付面の歩廊等の足場側へ回動又は取外し可能なパネル(1)に形成し、この構成されたパネル(1)に器具類(3)を設置したことを特徴とするのである。

〈作用〉

上記のように建物自体に備わっている、歩廊等の床を足場として使用し、取付面となる仕切の壁等の一部で形成したパネル(1)へ器具類(3)を取付けると、パネル(1)を回動又は取外すことにより、器具類(3)が歩廊等の足場側へ存在することになる。そこで、従来のような取付及び補修作業専用のデッキや昇降設備が不要になり、建物内の空間を有効利用することができる。また、足場組や高所作業車の必要もなくなる。

〈実施例〉

以下図面によって本考案の実施例を詳細に説明する。

第1図は本考案の一実施例を示す斜視図であり、

第2図は同パネルを閉じた状態での平面図である。

第1図、第2図に示すのは壁面の高所に器具類(3)(図示したものは照明器具)を取付けた例で、壁(8)へパネル取付枠(7)を設け、このパネル取付枠(7)に対して蝶番(5)で歩廊の床(9)側へ回動可能に器具類取付用の扉状のパネル(1)を取付けている。この床(9)が本考案で云う足場である。パネル(1)は予め器具類取付用台座(2)と把手(6)が取付けられていたものである。

床(9)側へパネル(1)を回動させて開いた状態(第1図、及び第2図中仮想線)で、床(9)上の作業にて器具類(3)を器具類調整板(4)を介して器具類取付用台座(2)へ取付ける。調整板(4)は水平方向の角度を調整可能な構造である。

第3図は他の例を示す斜視図で、パネル(1)の回動方向を90°変更させたものであり、蝶番(5)をパネル(7)の下方に取付けている。この場合は、取付や補修の作業はパネル(1)を床(9)側へ倒して行なう。第3図例はその逆の、蝶番(5)をパネル取付枠(7)の上方に取付けた構造にすることもで

きる。また、パネル(1)をはめ込み式にして、取外し可能にすることもできる。

第4図及び第5図に示すように、壁面以外の屋根や天井面などにも本考案は採用できるものである。この場合は屋根が本考案でいう取付及び補修作業用の床(9)、すなわち、足場となる。器具類(3)が照明器具の場合で、これで屋内を照らす際には、第4図のようにして使用し、屋外を照らす場合には、第5図のようを使用する。

なお、本考案で云う床(9)は歩廊以外の階段や踊場等の足場でも良いことは勿論のことである。

〈考案の効果〉

以上のように、本考案の高所取付面への器具類取付構造であると、器具類の取付及び補修専用のデッキやこのデッキへの昇降用設備が不要となり、建物内の空間が有効利用できると共に設備費の節減に大きく貢献する。また、足場組や高所作業車も必要とすることがなく、前記設備費の節減効果が更に助長される。更に、器具類の取付作業や補修作業時の安全性が高まる。

4. 図面の簡単な説明

第1図は本考案の一実施例を示す斜視図であり、
第2図は同パネルを閉じた状態での平面図である。
第3図は他の例を示す斜視図である。第4図及び
第5図は屋根面における本考案の実施態様例を示
すいずれも説明図である。第6図は従来における
器具類を高所へ取付けた状態を示す説明図である。

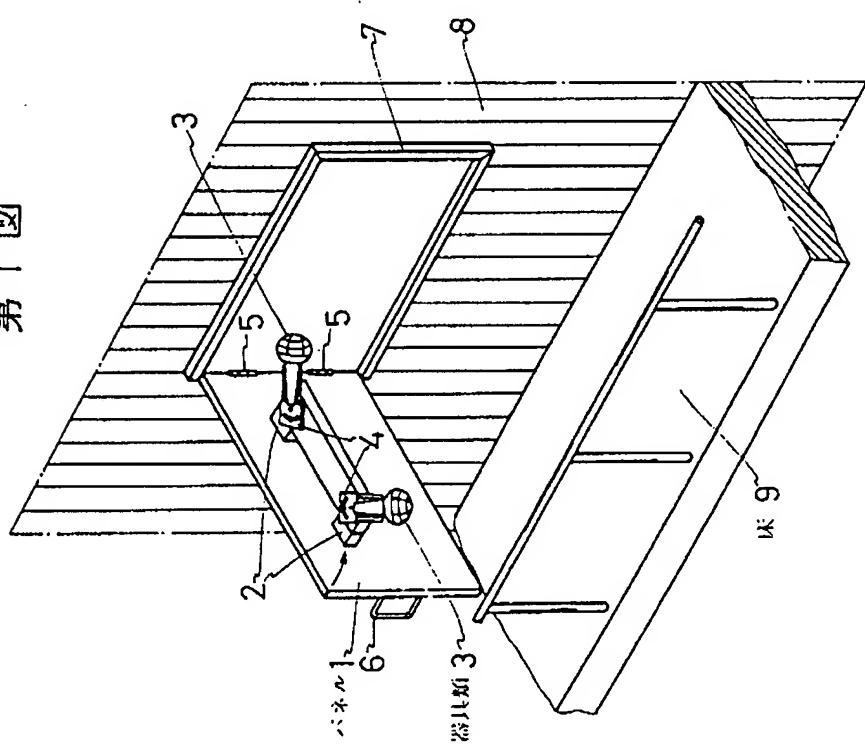
(1) パネル	(2) 器具類取付用台座
(3) 器具類	(4) 器具類調整板
(5) 蝶番	(6) 把手
(7) パネル取付枠	(8) 壁面
(9) 床	

以 上

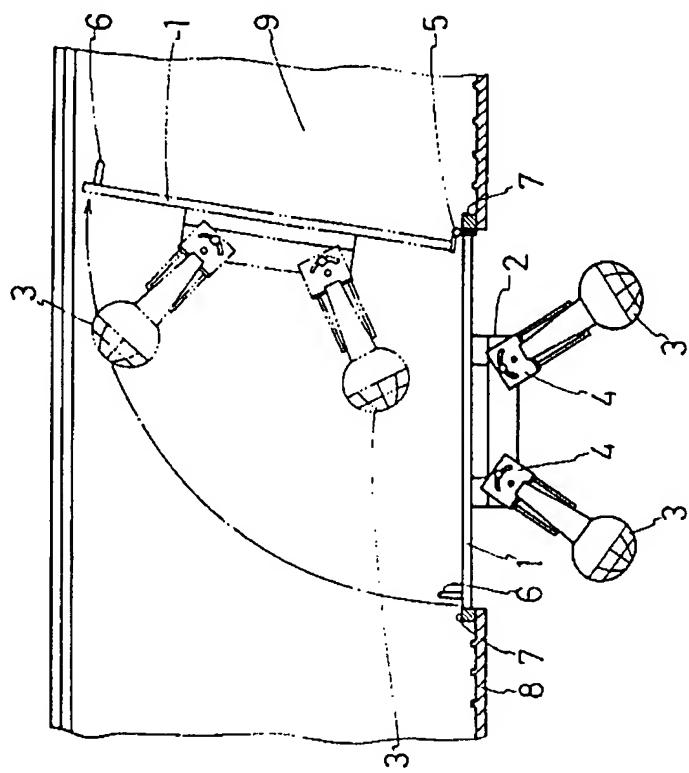
出願人 川崎製鉄株式会社

代理人 弁理士 森 廣三郎

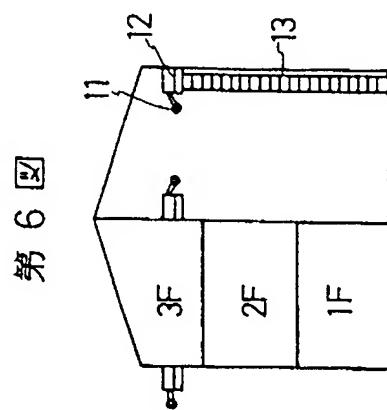
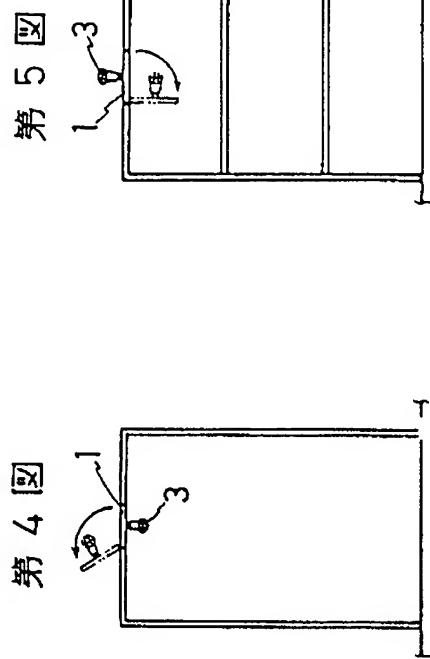
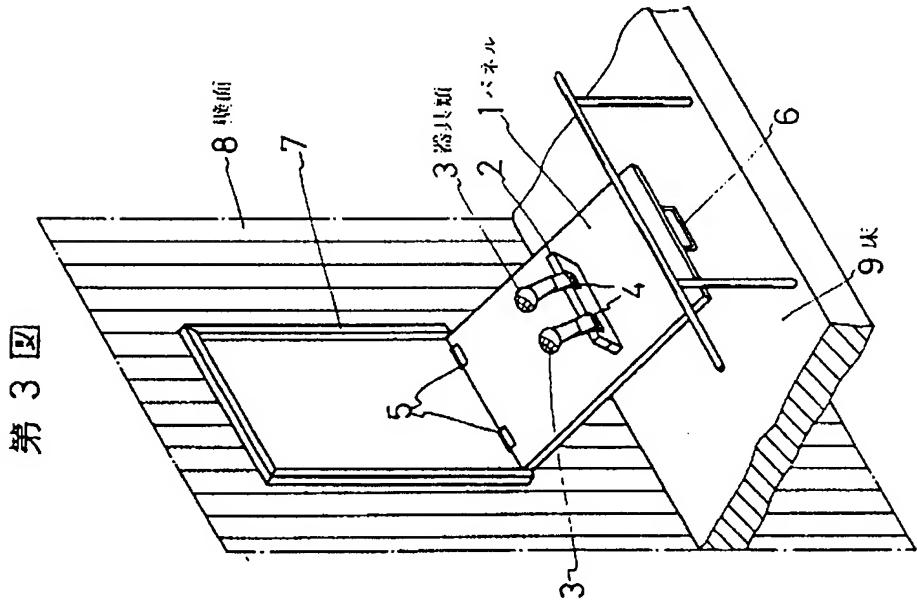
第1図



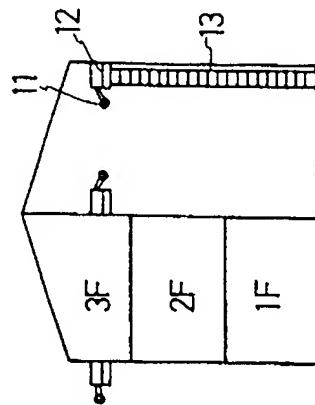
第2図



103 146909
出願人 川崎製鉄株式会社
代理人 井理士森 良三郎



第6図



109 寶創門-146909
出願人 川崎製鉄株式会社
代理人 施工士林 三郎